

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所
協働推進課



みなとふ

Takanawa
Community News Magazine



CONTENTS

② 地域のイベント

さくら、さくら巡り！
高松桜まつり
つな引き大会 with ころころ市
弦楽四重奏でビートルズ！
明治学院チャペルコンサートシリーズ

③ この街にこの人あり

シンクロデュエット銅メダリスト
田中 ウルヴェ 京さん



④ ⑤ 文学散歩

高輪地区ゆかりの文学者

⑥ ⑦ 地域の HOTな人たち

アクセサリーの店「鈴木荘」
Chikara (渡辺 力) さん
ナンタケットバスケット制作者
西村 友恵さん
信号ラッパ手作り名人
長野 健次さん・守さん

表紙絵 『ママのお靴』
片岡 ミツ子 さん (高輪在住)

文学のまち

この地域（三田4・5丁目、高輪、白金、白金台）の様子は小説、詩、歌などあらゆるジャンルの文学に登場しています。例えば小説では島崎藤村、池波正太郎、向田邦子、渡辺淳一、横溝正史の作品の一場面に登場するなど枚挙にいとまがないほどです。また、多くの文学者がここで暮らしたことがあります。

このまちには文学者にとって何か魅力があるのでしょうか。その理由を考えてみました。

歌人吉井勇がこの地区を語る一文があります。「私の新しい家は、高輪の臺の上に建てられていて、二階の窓からは海の中に品川の臺場が見え、晴れた日には安房上總の陸の影が、鮮やかに私の眼底に落ちた」この文のように、かつては、台地から海や富士山も望むことができました。

さらに、このまちは起伏がある複雑な地形で坂が多いことも特徴です。歩くと刻々変化する情景がドラマを生むのでしょうか。

もう一つは、長い間培われた歴史があるからです。時代を感じさせる建物、樹木、道の様子が心に残ります。

さらに、もう一つの要素は、この地域はお屋敷まちと人情豊かな職人や商人のまちが混在しているからです。そこに住む多様な人々との出会いから、物語が生まれるのでしょうか。こんなまちの魅力をいつまでも残しておきたいし、またそれを味わうために、文学者のゆかりの場所や文学に登場する場面を示す文学マップやそれを歩いて体験する散歩コースがあるとよいのではと思いました。

(担当 / 安藤)

この街にこの人あり

メンタルトレーナー
1988年ソウル五輪シンクロデュエット銅メダリスト

田中ウルヴェ 京さん
みやこ

生まれてから今までずっと白金・白金台におられたのですか

アメリカとスイスと、六本木に一時住んだことを除き、何度も引越しましたが白金、白金台にずっと住んでいます。今は自宅、会社、そして経営するピラティススタジオも、すべて白金台です。

小さい頃は医科学研究所の敷地内に秘密基地を作ったりして遊んだ思い出があります。

小学校から高校までは聖心女子学院に通っていました。歩いて3分の距離でしたので5分前の予鈴が鳴ってから家を出ました。(笑)

シンクロナイズドスイミングを始めたきっかけは

6歳の頃から水泳を習っていました。6歳の頃のコースでシンクロナイズドスイミングをやっているのを見て、かっこいいと思い、自分から親にやらせてほしいと頼みました。10歳の時です。

その後、どんな練習をして、日本の代表選手になったのですか

10歳の頃、年齢別の全国ソロ大会に初めて出て4位になりました。コーチは4位でも立派だと言ってくれました。ですが、自分ではくやしくて。更衣室で1位になった子をつかまえて、どうすればうまくなれるのかと尋ねました。後でわかったのですが、その1位の子が同年齢の小谷実可子ちゃんだったのです。次には自分が1位になると宣言しました。(笑)

その後、12歳で本格的にシンクロを続けるために東京シンクロクラブに入り、週6日の練習が始まりました。14歳の時、カナダの年齢別国際大会で実可子ちゃんとデュエットを組み準優勝

しました。

シニアの日本代表選手になったのは史上最年少の15歳の時です。当時は、朝、3時半に起きて4時にプールに行き、早朝練習の前にプール掃除をする代わりに、プールを無償で使わせていただいていた。掃除の途中で眠りそうになることが何度もありました。

夜の練習もあり、帰ってくるのは夜10時ごろでそれから宿題をしたりするので、睡眠時間は3時間位ということもありました。早朝から夜まで家に帰れないので、母はお弁当を5食作ってもたせてくれたこともありました。

学校に練習のことを知らせていたのですか

お稽古事の届けはしていましたが、知らない先生方もいらしたのだと思います。朝礼時にはいつも髪がぬれているので、シスターから、髪をかわかす時間位早く起きなさいと注意されたことがあります。(笑) 朝練習をして登校していることを知ってからは、そのシスターは、よく内緒で鉛をくださったりして、はげましてくださいました。

勉強との両立は大変だったでしょう

勉強もがんばりたかったのですが、できるだけ休み時間を利用して宿題をやっていました。

毎日があまりにもきついので、ついに、母に「もうシンクロはやめて、普通の高校生になります」と言うと、母は意外にも「あら、そう、よかったですわ。私も助かるわ。朝3時に起きてお弁当を5食もつくらなくてすむしね」と言いました。

その時、はつきり理解できました。練習するのは、だれかのためにやって

いるのではない自分のためなんだ。いつでもやめられるなら、やめる時は自分で決めようと思いました。

ソウルオリンピックの時小谷実可子さんとデュエットを組み、銅メダルをとりましたね。本番で緊張しましたか

極限まで練習していたので、体がかなりほろほろで、特に両耳の中耳炎で鼓膜に穴が開いている状態だったので、「ただ、やるべきことをやるだけ」ということを自分に何度も言い聞かせていました。本番は100%力を発揮できたと思っています。実可子ちゃんとの息もあっていました。

その後、アメリカにきましたね

オリンピックの後、代表チームのアシスタントコーチをしていたのですが、なんていうか、メダリストという肩書におごってしまった。自分も成功した人間だと勘違いしました。やがて、かっこよくありたい「あるべき自分」と、本当の自分のふがいなさのギャップに耐えられず、自分のことが嫌で嫌でストレスになりました。落ち込んでうつに近い状態になった時、日本オリンピック委員会(JOC)でコーチになるための留学制度があったので、応募し逃げるようにアメリカに行きました。

アメリカではどんな勉強をされたのですか

最初は語学の勉強をし、さらにカリフォルニア州セントメリーズ大学院修士課程でスポーツ心理学を学びました。修士修了後、アリゾナで、宇宙飛行士やプロスポーツ選手の実力発揮のための認知行動療法に出会い、アーゴジ心理専門大学院で学びました。さらにパフォーマンスエンハンスメント、アスレティックリタイヤメント

も学びました。

現在のお仕事は

アメリカで学んだことを生かし、心身の健康をテーマに2001年に(株)MJコンテスという会社を作りまし。心の健康として様々なメンタル指導をアスリートだけでなく、経営者や営業マン、お母様方、小学生など幅広い対象におこなっています。

また、身体の健康として、体幹を鍛えるエクササイズであるピラティススタジオを白金台と大阪に開設しています。米国ネバダ州立大学との完全提携でピラティス指導者、ゴルフピラティス指導者の公認資格発行もおこない500名以上の卒業生がいます。また、メンタルトレーニングやピラティスの本も20冊以上書きました。

ご家族と今のご趣味は

夫はアメリカの同じ大学で知り合ったフランス人です。子どもは2人いますが、家族での会話は、フランス語、日本語、英語が飛び交っています。趣味としては、できるだけ毎日泳いでいますし、またワインも好きですね。

将来の目標はどんなことですか

仕事と子育てが一段落したら、もう一度海外の大学院で自分があまり知らない歴史や哲学を学んでみたいと思います。

取材を終えて

田中京さん、エネルギーッシュで快活、前向きで、言葉がほとばしり、人生を2倍・3倍の密度で走っている感じの方でした。人間、挫折を経験しないと進歩しないという言葉が心に残りました。



(担当)安藤・河村・田中・安

田中ウルヴェ 京 (たなか うるゐえ みやこ)

1967年東京、港区白金生まれ。聖心女子学院初中高等科を経て、日本大学在学中の1988年にソウル五輪シンクロデュエットで銅メダル獲得。89年～99年日本代表チームコーチ、アメリカ五輪ヘッドコーチアシスタント、フランス代表チーム招待コーチなどを歴任。カリフォルニア州セントメリーズ大学大学院健康・体育・リクリエーション学部修士課程修了。99年からは米国アーゴジ心理専門大学院

(株)MJコンテスHP <http://www.mjcomtesse.com>

にて、認知行動療法、スポーツカウンセリングを、2000年米国サンディエゴ大学院にて、パフォーマンスエンハンスメント、アスレティックリタイヤメントを学ぶ。その後、(株)MJコンテス、ピラティススタジオ「DMJボディバランシング」を立ち上げる。企業研修、講演は年に200を数え、著書訳書多数。最近では報道番組でコメンテーターもつとめる。





吉井勇
＜出典：「吉井勇歌集コレクション」＞



長谷川伸郎 <提供：新鷹会>

8【渋澤龍彦(しぶさわつひこ)】

昭和3年～昭和62年(1928～1987)
小説家・仏文学者・評論家
高輪車町に生まれる。マルキド・サドを日本に紹介。「唐草物語」で泉鏡花賞を、「高丘親王航海記」で読売文学賞を受賞。

9【島崎藤村(しまざきとうそん)】

明治5年～昭和18年(1872～1943)
詩人・小説家 「若菜集」「破戒」
1887年16歳で、明治学院普通学部本科入学に際し、高輪台町教会牧師の木村熊二宅(二本榎62番地…丸山神社辺り)に下宿。後、同教会にて受洗。1892年春、北村透谷と知り合い、東禅寺横の透谷宅を訪れている。1913年渡仏に際し、芝二本榎西町3番地を留守宅とし、1916年帰国後、その「高輪の家」に住む。

10【樋口一葉(ひぐちいちよう)】

明治5年～明治29年(1872～1896)
小説家 「たけくらべ」「にごりえ」
1888年16歳の時、芝高輪北町19番地に居住。「うもれ木」は名工の苦闘精進に可憐な恋をからませたデビュー作で、高輪住まいの次兄がモデルになっている。

11【吉井勇(よしいいさむ)】

明治19年～昭和35年(1886～1960)
歌人・脚本家・旧伯爵・歌会始選者
芝高輪の海の見渡せる広い邸宅で幼児期を過す。「うるみたる目にありありと浮び来(き)ぬわが生い立ちの高輪の家」「ゴンドラの唄」の作詞者としても有名。

●白金台

12【上田敏(うえだびん)】

明治7年～大正5年(1874～1916)
文学者・評論家・翻訳家
詩集「海潮音」
1915年白金三光町276に転居してくる。「山のあなた」や「秋の日のヴィオロンのためいきの……」などの名訳は、今なお広く知られている。旧制一高時代に、透谷・藤村らの「文学界」同人となり、親交があった。



上田敏
＜出典：「現代日本文学全集20」＞

13【岡本一平(おかもといつぺい)】

明治19年～昭和23年(1886～1948)
漫画家・作詞家 「漫画漫文」「隣組」

【岡本かの子(おかもとかのこ)】

明治22年～昭和14年(1889～1939)
小説家・歌人 「鶴は病みき」「老妓抄」

【岡本太郎(おかもとたろう)】

明治44年～平成8年(1911～1996)
芸術家他 「太陽の塔」「明日の神話」
一家は1919年日吉坂上の細い坂道を下った、芝白金三光町293番地に転居。家の裏は赤土の崖で、伝染病研究所の古びた鋭角の塔をもった病院が見え、一平は「崖の家」と名付けて家族はこの風流めいた木造2階家をこよなく愛した。



龍彦 <提供：渋沢龍子氏>

14【太宰治(だざいおさむ)】

明治42年～昭和23年(1909～1948)
小説家 「斜陽」「人間失格」
1932年23才、左翼との関係を絶ち習作を続ける傍ら、芝白金三光町276番地、明治の元勲大鳥圭介の旧邸の一室を借り、後に三兄の友人東京日日新聞記者の飛鳥定城一家と同居する。

15【西脇順三郎(にしわきじゅんざぶろう)】

明治27年～昭和57年(1894～1982)
詩人・英文学者・評論家。慶応義塾大学文学部教授を歴任。日本芸術院会員。
昭和の一時期、白金台3丁目に居住。「Ambarvalia」、「旅人かえらず」、「近代の寓話」などの詩集を発表。1957年にはノーベル文学賞の候補になる。

16【長谷川伸(はせがわしん)】

明治17年～昭和38年(1884～1963)
劇作家・作家 「験の母」
1940年それまで住んでいた高輪南町から芝二本榎西町2番地に転居、自宅で「新鷹会(しんようかい)」と称する勉強会を開き大衆作家の育成に力を注ぐ。1956年には「日本捕虜誌」で菊池寛賞を受賞。自宅建物は現在も住所地に残る。

17【大佛次郎(おさらぎじろう)】

明治30年～昭和48年(1897～1973)
小説家 「鞍馬天狗」「帰郷」
1964年文化勲章受章
芝白金今里町13番地に居住。白金尋常小学校を首席で卒業。同校に大衆作家小杉天外の娘がいて小説家に興味をもち、本好きが崇って作家になったことが「私の履歴書」に記されている。大の猫好きでも有名。

●白金

18【小林秀雄(こばやしひでお)】

明治35年～昭和58年(1902～1983)
文芸評論家。明治大学教授、「文学界」の責任編集者など歴任。日本芸術院会員。
白金尋常小学校卒業。1909年白金志田町15に居住。芸術院賞、読売文学賞、野間文芸賞、文化勲章、日本文学大賞などを受賞。一時期白金今里町77に本籍をおいていた。

●三田

19【田村俊子(たむらとしこ)】

明治17年～昭和20年(1884～1945)
小説家 「木乃伊(みいら)の口紅」
1917年夫との共通の友人であった朝日新聞記者鈴木悦との恋に走り、始めは高輪、やがて三田功運町に2人で隠れ住む。鈴木悦との愛の経緯については「破壊する前」で赤裸々に語られている。



田村俊子
＜出典：「火と燃えた女流文学」＞



岡本一家(岡本かの子、岡本太郎、岡本一平) <出典：「火と燃えた女流文学」>

Literature Walk

文学散歩

高輪地区ゆかりの文学者

●高輪

①【朝吹登水子(あさぶきとみこ)】

大正6年～平成17年(1917～2005)

仏文学者・随筆家

高輪で育ち、白金台に居住。1955年フランソワーズ・サガンの「悲しみよこんにちは」を翻訳、以後サガンやボーヴォワールの訳を多く手がける。サルトルとの交遊でも知られ、2000年仏政府よりレジオンドヌール勲章シュヴァリエを叙勲された。

②【安藤一郎(あんどういちろう)】

明治40年～昭和47年(1907～1972)

詩人・英文学者。東京外国語大学教授・現代日本詩人会会長など歴任。

高輪1丁目に居住。「ポジション」、「経験」、「摩滅」などの詩集を発表、「若草物語」、ジェームス・ジョイスの「ダブリン市民」などを翻訳。「摩滅」で無限賞を受賞。

③【巖谷小波(いわやさざなみ)】

明治3年～昭和8年(1870～1933)

小説家・児童文学者 「こがね丸」「ふじの山」

自宅庭の一角に東西古今の馬に関する玩具、書画、器物を収集して展示した「千里閣」を建て、毎日曜日無料で公開した。旧芝高輪南町、現在(高輪4-1-18)に邸宅跡の碑がある。

④【江戸川乱歩(えどがわらんぼ)】

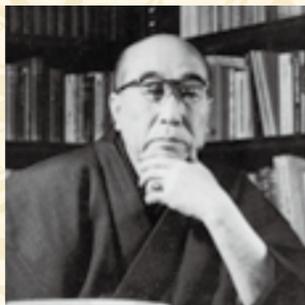
明治27年～昭和40年(1894～1965)

推理小説家 「怪人二十面相」「D坂殺人事件」

芝車町8番地、土蔵のある家に居住。街道(旧東海道)の騒音に悩まされ、のち閑静な池袋へ転居する。日本の探偵小説界に大きな足跡を残し、特に少年向けの作品「怪人二十面相」は、大ブームとなる。

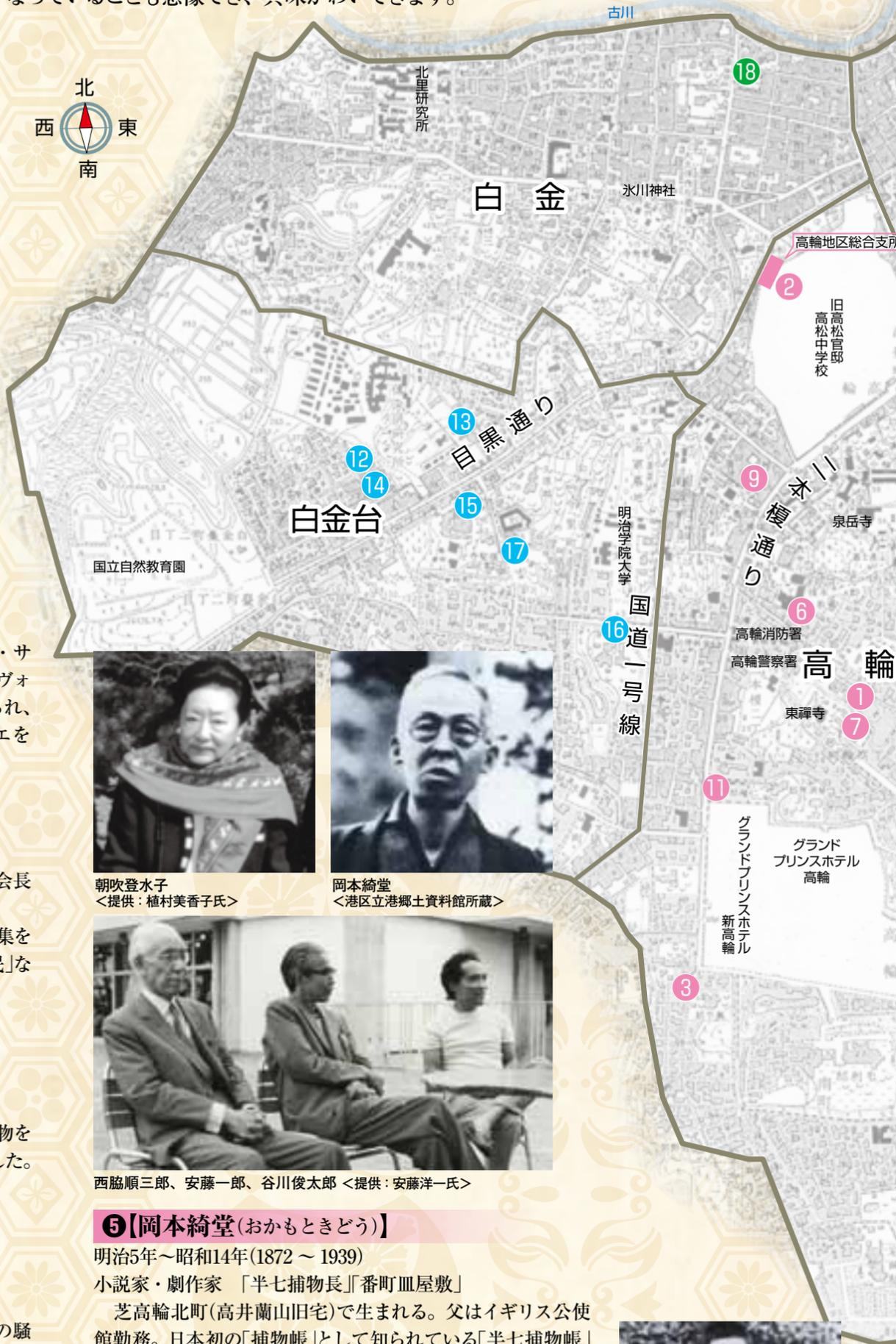


巖谷小波
＜提供：巖谷一六・小波記念室＞



江戸川乱歩
＜提供：学校法人立教学院＞

この高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)には、明治、大正、昭和にかけて活躍した文学者が生まれ、育ち、生活した場所が数多くあります。それぞれの文学者ゆかりの場所を地図に示してみました。これらの場所が作品の背景となっていることも想像でき、興味がわいてきます。



朝吹登水子
＜提供：植村美香子氏＞



岡本綺堂
＜港区立港郷土資料館所蔵＞



西脇順三郎、安藤一郎、谷川俊太郎 <提供：安藤洋一氏>

⑤【岡本綺堂(おかもとときどう)】

明治5年～昭和14年(1872～1939)

小説家・劇作家 「半七捕物帳」「番町皿屋敷」

芝高輪北町(高井蘭山旧宅)で生まれる。父はイギリス公使館勤務。日本初の「捕物帳」として知られている「半七捕物帳」の中には、江戸時代の港区界隈の様子が偲ばれる描写が数多く含まれている。

⑥【梶井基次郎(かじいもとじろう)】

明治34年～昭和7年(1901～1932)

小説家 「檸檬」「桜の木の下には」

1908年父親の東京転勤にともない、芝二本榎町3番地(現高輪台小学校の門の向い)に居住。梶井家が借りたのは、頌栄学校校主、岡見清致の持ち家で基次郎と兄は私立頌栄尋常小学校へ通学した。



梶井基次郎 <出典：「日本文学全集34」>

⑦【北村透谷(きたむらとうこく)】

明治元年～明治27年(1868～1894)

詩人・評論家 「楚囚の詩」「蓬莱曲」

1890年普連土女学校の英語教師に、1893年には島崎藤村の後任として、明治女学校に赴任。芝高輪に居住する。同年藤村等と「文学界」を創刊、浪漫主義運動の先駆となるが、翌年自殺。一時期白金台の瑞聖寺墓地に埋葬される。



北村透谷 <港区立港郷土資料館所蔵> 津澤



この高輪地区にはものづくりの歴史があります。
そこで今回は、自分の技術に自信をもってコツコツと
ものづくりの伝統を受け継ぐ地域の4人の方をご紹介します。

トテチテタ♪と鳴らす信号ラッパは白金生まれ

信号ラッパ手作り名人 長野 健次さん・守さん

生粋の白金人であり信号ラッパ手作り名人である長野健次さんと弟、守さんの工場を訪ねました。白金商店街に程近く、大変珍しい信号ラッパ(ビューグル)製作工場は先代が創業し、2代目の兄弟がしっかり守っています。

長野兄弟が製作する種類のラッパは、楽器というよりマイクロフォンなどがなかったころ、世界各国の軍隊で「突撃」「進め」「止まれ」といった戦闘号令を伝達する道具として使用されました。同じようなものが紀元前のエジプトで使用された記録があります。現在はその伝統が消防署や自衛隊で起床・国旗掲揚・朝礼・食事・消灯といった日常生活号令や、榮譽礼・閲兵式パレードといった式典行事号令などに継承されています。共にピストンまたはロータリー式のバルブがありません。

長野兄弟は国産の真鍮板と真鍮管を厳選してラッパ材料とします。卓越熟練した技術で、円形に切断した真鍮をのぼしてジョーロ状に形成し、管部分はラッパ状に曲げて溶接します。その後、メッキ、研磨など全工程を同一工場内で共同作業で行っているのは大変珍しく、最後にマウスピースと組合せ、赤い

房をつけ完成します。儀礼服の隊員が国旗掲揚式典などの晴れ舞台上、ひととき高らかにそのラッパを奏でる様子が思い浮かびます。

長野健次さんは神心小学校、朝日中学校の出身。高校を卒業後、約40年間この道一筋です。弟さんは約10年前からこの道に加わりました。3月末に納入するラッパが多く、1月～3月が忙しいです。製作は結構な力仕事で、この頃だいたいぶきつくなってきています。白金商店街地域はかつて小規模工場が立ち並んでいましたが、どんどん工場や商店が減り、マンションに変身しています。その原因には後継者問題もあり、この工場でも3代目の後継者はまだ決まっていないようです。

白金商店街近くを通るとき、耳を澄ませると長野さんのラッパの「試し吹き」が聞こえるかもしれません。この地域から、ラッパの音が今後、末永く聞こえ続けることを祈ります。

[担当：渡邊・坂下]



左：健次さん(海上用ラッパ)・守さん(陸上用ラッパ)

【長野製作所】港区白金5-7-9 3441-1781

ルワンティさんおすすめ スリランカ チキンカレー



スリランカ大使館一等書記官
Mrs. Ruwanthi Delpitiya
ルワンティ・デルピティーヤさん

【ワンポイントアドバイス】

香辛料で、粒や棒状のものがなかったらパウダーでもかまいません。

スリランカには、魚カレー、豆(レンズ豆)カレー、野菜カレーなど、さまざまなカレーがあります。日本の家庭で、醤油、味噌を常備しているように、スリランカの家庭では、さまざまな香辛料を常備しています。カルダモン、クミン、クローブ、コリアンダー、ナツメグ、胡椒、パプリカ、赤唐辛子、生姜など、約20種類もの香辛料があります。魚、野菜などの素材によって、香辛料の組み合わせを替えて使います。例えば、コリアンダーは、エビやカニカ

レーに使います。また必ずと言っていいほど、カレーには特産のココナッツミルクを入れます。

一日に3度、カレーを食べる家庭もあります。夕食には、2～3種類のカレーが他のおかずと共に食卓に並びます。スリランカでは、カレーとはさまざまな香辛料を使った煮込み料理の総称だそうです。日本人が、一般的にカレーで作るカレーとは、味がかなり違います。

材料 4人分

鶏骨付き肉 600g
玉ねぎ(薄切り) 1個
しょうが(みじん切り) 20g
にんにく(みじん切り) 2片
サラダ油 大さじ3
塩 少々
黒こしょう 適宜
ココナッツミルク 240ml
カルダモン(砕いておく) 4粒
クローブ(砕いておく) 5粒
スリランカカレーパウダー 小さじ2
(普通のカレー粉でもよい)
* チリパウダー 小さじ1
シナモン 1/2本
カレーリーフ 4~5枚
【ランペと呼ぶ笹の葉のような香葉】
(なくてもよい)

作り方

- ①鶏肉をさっと洗い、よく拭き水気を取る。
- ②大きなボールに鶏肉、*の香辛料、塩、黒こしょうを入れよくからめ、そのまま15~30分ほど置く。
- ③鍋でサラダ油をあたため、しょうが、にんにくを加え1分ほど炒める。玉ねぎを加え、しんなりするまで炒める。
- ④2を加え、軽く炒める。250mlのお湯を加え、よく混ぜてふたをし、弱火で20分ほど煮る。(焦げないように時々かき混ぜる)
- ⑤ココナッツミルクを加えかき混ぜる。一度沸騰させて弱火にし、さらに10分ほど煮込む。
- ⑥最後に塩で味を調える。



[担当/滝川・中嶋・山根]

ものづくりに取り組む

地域のHOTな人たち

いま、社会のあちこちでもものづくりの大切さが脚光を浴びています。規模は大小さまざまですが、ものづくりこそ社会の基盤をつくるという考え方です。

身につける人の個性を輝かせたい

アクセサリーの店「鈴木荘」 Chikara (渡辺 力)さん

プラチナ通りから路地に入り、閑静な住宅街に位置するモダンでかわいい白い建物、それが、知る人ぞ知るアクセサリーの店「鈴木荘」です。オーナー兼デザイナーはChikaraこと渡辺 力さん。蝶をシンボルマークに、花や植物など自然に根ざしたものを取り上げていて、シルバーやゴールドなどのさまざまな材料で商品を製作しています。

渡辺さんは高輪台小学校の出身。小さい時は高輪の町を遊び回っていました。ものづくりに興味を持ったきっかけは、彫金、籐編み、編み物が大好きだったお母さんの姿です。幼心にものづくりの楽しさ、すばらしさを知ったそうです。1993年に高輪台小時代の友人を訪ねてアメリカへ。メリーランドで彫金と出会い、たちまちとりにこに。カレッ



ジの彫金コースで学び、98年に帰国。2000年に現在の地に店を構えました。

「鈴木荘」という店名は、以前そこにあった古いアパートからとったそうです。

力さんのコンセプトは、アクセサリーは単に身を飾るだけでなく、それをつける人の個性を引き出すものでなければならない、ということ。そのため、購入される人の目的や考えをとことん聞いて、それを体現できるようなアクセサリーづくりを目指しています。顧客は30代前後のいわば“大人”の女性が多く、指輪のオーダーで来店する男性もいます。ひまな時には、修理も受け付けるそうです。

仕入れ、製作、経営をすべて1人でやっているのだから、やりがいのある反面、仕入れ材料の価格の変動の影響を受けて困ることもあるそうです。

最大の趣味はサイクリング。現在数台の自転車を所有し、お気に入りの競技用自転車には、特別にブルートパーズの細工を施して愛用しています。

お店の玄関にある小さい池でメダカなどを飼い、お子さん達が見に来たりして、ご近所との交流も楽しんだりしています。どうぞ気楽に、お店にお立ち寄りくださいとのことでした。

[担当: 滝川・谷知・中嶋・山根]



【鈴木荘】白金6-14-29 3449-2229 URL:www.suzukiso.com

感性豊かに、素敵な作品を生み出す

ナンタケットバスケット制作者 西村 友恵さん

ナンタケットバスケットをご存知ですか。

アメリカの東海岸、ボストンの南、ケープコッドから30マイルの沖に浮かぶ小島ナンタケット島で伝統工芸として昔から作られてきたバスケットです。素材は竹、籐、木などすべて自然素材からなり緻密な手作業で作られます。一見華奢ですが、3代はもつといわれる頑丈さを兼ね備えています。

高輪2丁目、そのナンタケットバスケットを制作し、教室も開いている西村友恵さんをお訪ねしました。



西村さんに、ナンタケットバスケットとの出会いをお聞きしました。「高校生の頃に、アメリカ大統領夫人やモナコの王妃がこのバスケットを持っている写真を見て、とても惹きつけられました。10年ほど前、たまたまナンタケットバスケット

を作っている師となる女性にお会いする機会があり、その作り方を学ぶために、毎日のように家にお訪ねして基本的な技術を5年かけて習得しました。その後、何人かの外国の方からも技術を学びました。2年前、高輪で制作室と兼用で教室を開きました」

作品は完全な受注生産で頼まれてから完成するまでに、様々な工程を経て3ヵ月から半年以上かかります。材料は基本的にはアメリカからの輸入。ふたの上にある飾りには、特に工夫を凝らしています。

「アメリカ生まれのバスケットですが、様々な国のアーティストの工芸品と融合した時、さらに素晴らしいものになるのではと考えています。庭の花を入れたり、お菓子を入れたり日常生活に融け込んだ使われ方ができるようなものも作っていきたいです。高輪地区は歴史と緑あふれる地域、私の作品も自然の素材を使っています。日々の暮らしの中で感性を豊かに、素敵な作品を生み出していきたいです。教室においては、生徒一人ひとりとの交流の中、和やかな雰囲気を楽しみながら制作できるよう進めています。生まれ育ったこの地元でこれからも活動していきたい」と西村さんは熱く語っていました。

[担当: 谷知・安藤・安・滝川]



【アトリエ ロジューヌ】080-3017-2008 e-mail:rodinne@adtn.view21.net

タウンミーティング TAKANAWA メンバー募集!!

高輪地区（三田4・5丁目、高輪、白金、白金台）の魅力アップに向けて一緒に考え、活動してみませんか。

対象：高輪地区に在住・在勤・在学の人、または高輪地区のために活動したい人

| No | 募集内容 | 任期 | 募集人数 | 会議の開催日 | 第1回会議のお知らせ |
|----|---|------------------|------------------------------|--|--|
| 1 | 「白金高輪グリーンミュージックフェスティバル」実行委員（高輪地区内での音楽祭の検討・開催） | 1年間（23年4月～24年3月） | 15名程度 | 平日夜間（月1・2回程度） | 全体会 平成23年4月14日（木） 午後6時30分～ 高輪区民センター 1階集会室 <内容> 各メンバー自己紹介 活動内容説明 等 |
| 2 | 「高輪かがやき百景」実行委員（まちの魅力を写真等により再発見する事業の検討・実施） | | 10名程度 | 平日夜間（月1回程度） | |
| 3 | 地域情報紙グループ（高輪地区内の情報を取材し、地域に密着した情報紙づくり） ※一時保育あり ※①または②を選択してください | | ①編集・校正メンバー ②ベビー&キッズ記事メンバー | 15名程度 5名程度 ※現在子育て中または今後子育て予定の方優先 | |

留意点：報酬・交通費・取材費等の支給はありません。

申し込み方法：希望するグループの番号・住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、郵便またはFAXで下記へ。

※重複しての応募はできません。応募者多数の場合は抽選。

しめきり：平成23年3月30日（水）<必着>

【あて先・問い合わせ】高輪地区総合支所協働推進課地区政策係 〒108-8581港区高輪1-16-25 TEL：5421-7123 FAX：5421-7626

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係

☎5421-17612

保健福祉係

☎5421-17085

福祉会館が「いきいきプラザ」に変わります!

平成23年4月1日から港区の福祉会館（芝公園、新橋福祉会館を除く）と健康福祉館が、「いきいきプラザ」に名称を変更します。

いきいきプラザは、「高齢者のいきがづくり、学びの場」、「介護予防、健康づくりの場」「ふれあいコミュニティ活動の場」の3つの活動の場として、地域の高齢者を元気にする施設を目指します。

また、施設の運営が指定管理者（民間事業者）になり、開館日の拡大（祝日、12/28、1/4を新たに開館）や介護予防、健康づくり等の各種事業が充実します。

【高輪地区総合支所管内のいきいきプラザ】

| 施設名 | 旧施設名 | 住所 | 電話 |
|------------|---------|------------|-----------|
| 豊岡いきいきプラザ | 豊岡福祉会館 | 三田5-7-7 | 3453-1591 |
| 高輪いきいきプラザ | 高輪福祉会館 | 高輪3-18-15※ | 3449-1643 |
| 白金いきいきプラザ | 白金福祉会館 | 白金3-10-12 | 3441-3680 |
| 白金台いきいきプラザ | 白金台福祉会館 | 白金台4-8-5 | 3440-4627 |

※高輪いきいきプラザは、平成23年4月1日から上記住所に移転します。

新しい高輪保育園、高輪児童館が開設します!

新しい高輪保育園、高輪児童館の建物（高輪いきいきプラザを含む）が完成し、平成23年4月1日から供用を開始します。（保育園は3月22日開園）

| 建物概要 | 所在地 | 高輪 3-18-15 |
|------|-----|---------------------|
| | 建物 | 延べ面積 2880.36㎡ |
| | 構造 | 鉄骨コンクリート造、地上3階、地下1階 |

なお、現在使用中の仮設の建物は、引き続き次の施設として活用されます。

桂坂学童クラブ 定員：40名（4月1日～11月30日。12月1日からは高輪子ども中高生プラザの学童クラブへ移行）

桂坂保育室 定員250名（0～2歳クラス：5月1日開設予定。3～5歳クラス：平成24年1月開設予定。）



万が一の交通事故のために

お急ぎください!

平成23年度 区民交通傷害保険の申し込みしめきり間近!

しめきり 3月31日(木)

※金融機関でのしめきりは3月25日(金)です

【問い合わせ】
高輪地区総合支所協働推進課

地区政策係
TEL 5421-7123

東京都最低賃金が改正しました
東京都最低賃金
時間額 **821円**
平成22年10月24日発効

編集だより

●あこがれの文学者と時を越えて、同地域に居住することは、そこはかとなくロマンを感じます。(明石)

●最近、会合などで地域の方にお会いすると、「みなとこ」の記事の話題がよく出るようになり、地域の方はよく読まれているなあと感じ、うれしい気持ちとともに責任の重さを感じます。(安藤)

●文学史上の偉大な人々のあしあとが見えてくるにつれ、現代の私たちと同じように、この地で日々の生活を営んでいたひとりの人物として、身近に感じられるようになり、彼らと同じ場所に生きていくという誇り、地域に対する敬愛の念がますます湧いてきました。(伊関)

●田中ウルヴェ京さん、それにしてもオリピックのメダルの結果と現在の貴女はご自身の努力もさることながらお母さまの1日5回もの手作りお弁当の賜物ですね。これからも港区でいつまでも輝き続けて下さい。(河村)

●手づくりの 誇り息づく 仕事場に汗にまみれた 道具(ころも) (坂下)

●スリランカチキンカレー、味わい深く、とても美味しいです。是非一度、作ってみて下さい。(滝川)

●高輪地区には数多くの桜名所がありますが、その一部を「高輪めぐり」に紹介しました。ウォーキングシューズにお弁当をもってぜひ歩いてみてください。(中)

●前から中を覗きたいと思っていたお店に行かれたのは役得ですね。(中嶋)

●友人達との何気ないおしゃべりでも、何かこの地域で役立つことはないかしら?というもアンテナをたてています。(安)

●最近、ものづくりの大切さが見直されています。今回の取材で、ものづくりに取り組む人たちの無限のパワーに圧倒されました。(谷知)

●高輪地区にゆかりのある文学者の足跡をたどって、その数の多さに驚きました。

●出生地、居住地はもとより、小説等多くの文学作品に描かれているこの町の様子に奥深い魅力を感じました。(吉田)

- 安藤 洋一(チーフ) 坂下 要子(サブチーフ)
- 谷知 貞江(サブチーフ) 明石 美穂子
- 伊関 則子 河村 保弘
- 滝川 まりえ 田中 啓子
- 中嶋 路子 安 勢津子
- 山根 幸子 吉田 由紀子
- 渡邊 義信